

## 1. 現職宮司宅の祭壇

いわば神道（神様）が仏教（仏様）を包摂している事例である。

### (1) 宮司の生田家

羽州街道徒歩スルーハイクの青森向け途中、2014(平成26)年9月17日(水)山形県村山市土生田地内を通りか掛った際に知ったお方である。自宅の祭壇は図-37のとおりであった。初めてお目に掛かったが故に余りのすばらしさに驚愕してしまった。まずは、大寶院生田家の事からである。代々が神職で今の当主は第21代目の**現職の神主さん**である。屋號は法印様（ホーエンサマ）と称されていた。敷地内に昔から利用して来た水垢離の溜地の跡があるが、その傍の建物の外壁にある説明案内版の要点を抜き出して見る。

・・・室町時代(1393年～)に羽黒山（家紋三つ巴）・出羽三山系の神道として開祖する。神仏習合の傾向が一層強まる中で、天台宗（最澄・伝教大師）<sup>ごんのだいそうづ</sup>権大僧都と、真言宗（空海・弘法大師）大越家と共に神仏儀礼一緒に役職を果たした。・・・



図-37

620年以上もの間、代々、家系の歴史を絶やさず積み重ねて来たのである。祭壇はまさに本物の神仏習合の姿である。家中の祭壇の間に入ると、まずは歴代引き継いで来た黒ずんだ<sup>けやき</sup>樺作りの鳥居がある。全体の造りも彫刻もシンプルである。中央祭壇（純神式）には、向かって左に大日如来坐像（同図右端の

大日如来坐像やたのかみは生田さんが撮影)、右側に神鏡(八咫鏡・円鏡)を祀っている。両者に仕切りはない。いずれも黒ずんでいる。おそらく、護摩焚きの影響ではないかと思う。左端には歴代祖先の仏式仏壇、右端には歴代祖先の神式仏殿を安置している。まさに神仏渾然一体の祀り方である。祀り方の全体の調和は素晴らしいものがある。

## (2) 宮司の瀧本家

吾が町内会にある「(宗) 月山神社」(無住)の宮司をされている山形市成沢の瀧本さん宅の祭壇についてである。図-38のとおりで、前出生田さんの祭壇と類似の造りである。中央に神様を祀り、挟むように左右両側に仏教世界の仏像を安置せしめている。向かって右側には不動明王、左側には毘沙門天像で、隣接する右端にはご先祖様の神式仏壇である。



図-38

.....

**お二人とも神社本庁公認の現職の神職・宮司**である、神仏渾然一体の祀り方である。まさに祀り方の全体の調和は素晴らしいものがある、大和民族DNAだいわの生き写しである。

## 2. 現職僧侶の気鋭精神

### (1) 仏教(仏様)と神道(神様)の相互包摂の事例



我が家の菩提寺、岩波の新福山石行寺（天台宗／宗教法人）の**現職の副住職（当時の役職、今は住職）が神前結婚式を挙げた**ことを紹介する。

・・・2015(平成 27)年の 3 月に結婚式を挙げたが、その場所は山形市内図-39 とおりの「鳥海月山両所宮」――祭神は、鳥海山『鳥海山大物忌神社』の神の“倉稲魂命”と、月山『出羽三山』の神の“月夜見命”――であった。寺の住職は一般的には、自分の寺で行うとか、縁の強い寺で行うとか、いずれにしても寺院で行うだろうが、自分は神道神社で行った。なぜなのか。明治の神仏判然の動きを受け、廃れていた石行寺を再興した住職がいた、そこで今の佐藤性に繋がる初代住職が修行していた事から、その縁に思いを致し、その処を選んだ。自分と父親は住職（僧職）の正装（導服）を着用した。儀式は、両所宮の神主さんに全てをお任せし、神職の正装を以って神道形式で挙行した。神主さんからは、現職の住職の結婚式は初めてだ、と言われた。・・・

この話を伺った時、私は感激のあまり、胸の奥底が震え熱くなるのを覚えた。会場はこの近辺で縁が深い天台宗は山寺の立石寺や天童の若松寺ではないのか、と直感したが、見事に外れたのである。列記とした神社本庁包括の宗教法人両所宮の神社で挙行したことである、何と素晴らしいことではないか。双方の関係者みんなに敬意と拍手を送りたい、畏敬の念で一杯である。逆に神主（神職）が寺院で結婚式を挙げた事例を知りたい！

## （2）仏教（仏様）とキリスト教の相互包摂の事例

二つの顔を持つ僧侶「<sup>つゆ まるこ</sup>露の団姫」さんのことである。図-40 の方で、上方落語協会に所属する落語家であり、かつ、天台宗不軽山道心寺（兵庫県）の僧侶でもあるという。テレビやラジオ、高座等の様々な分野で活躍している。クリスチャンと結婚したというが、次のネットサイトから QA 方式で抜粋する。「<https://www.e-aidem.com/ch/listen/entry/2019/05/29/103000>」

Q1; 団姫さんの夫はクリスチャンと聞いたが？

A1; 夫の<sup>だいかぐら</sup>豊来家大治朗は太神楽曲芸師だが、プロテスタントのクリスチャンでもある。芸風も信仰もまったく違う、人生の相方である。名古屋の寄席で一緒になった時に知り合った。

Q2; 大治朗さんの信仰についてどう捉えているのか？

A2; 例えば、夫が週末にかけて出張に行くとして、近くに夫の宗派に合う教会はないかな？ と一緒に



図-39

探すような仲。互いの宗教は「そこはそれ、これはこれ」と考えているので、宗教が原因で喧嘩をしたことはない。夫は毎週末には日曜礼拝に行く比較的熱心なクリスチャンであるけど、互いに理解しあって生活している。



Q3; とはいえ、仏教徒とクリスチャンの結婚となると、反対の声も多かった?

A3; 様々な沢山の批判はあった、何を考えているんだ、なんてことも言われた。ただ、私や彼を知る人からの反対がなかったのはうれしかった。結局、結婚式は延暦寺と教会の両方で行った。



Q4; そもそも多くの方は、宗教それ自体を「よくわからないから不安」なんだと思うが?

図-40

A4; 私の場合は仏教徒、夫の場合はキリスト教徒であるが、いずれにしても心のよりどころを持ち「おかげさま」の気持ちを忘れずにいることが豊かに生きる秘訣。なので、信仰をお互いに持っていることは良いことだと思う。

.....

だいかぐら

太神楽と言えは神道の香りがする、その方(夫)がクリスチャンである。そしてご自身(妻)は仏教徒、よって、結婚式は教会と延暦寺の両方で行ったということだが、この柔軟性と大抱擁性に驚愕し感激する、神・仏・キの大融合の様相である、なんと素晴らしいことだろう。

### 3. 神・仏・キ、三者の共同御朱印

図-41 は朝日新聞デジタル(2018年7月30日03時00分)に掲載された内容である。一枚の台紙に並べた形式にしのである、普通はこのような発想は湧かない。代表的な三つの宗教界が対等互啓(恵)精神を以って同座の実践である。私達の足元にも神社、寺院は固より教会さえある地域において、このようなことを真似た取組みを行えば衆目を集めることになるだろう。子供達に対する地域教育にはとてもいい素材になると思う。





崎津教会の御朱印（左端）などを押した御朱印帳を手にする中村五木市長＝熊本県天草市



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産への登録が決定してから30日で1カ月。熊本県内唯一の構成資産「天草の崎津集落」では29日、集落内の仏教と神道、キリスト教の三宗教の霊場に記念巡拝し、御朱印をもらうユニークな取り組みが始まった。キリスト教会が御朱印を発布するのは極めて異例だ。

企画した「天草みな宗巡礼センター（天草八十八ヶ所霊場先達会）」の世話役、山口誠治さん（55）によると、天草地域では「四国遍路」の天草版「天草八十八ヶ所霊場巡り」が数年前から盛んだ。

「お遍路さん」の一行は崎津の霊場「曹洞宗 普応軒」を巡拝する際、その足で崎津教会と崎津諏訪神社にも参拝していた。

今回の世界遺産登録については、約250年の禁教下で、周囲の神道や仏教の信者に一人の密告者もいなかったという奇跡の歴史があったおかげで「潜伏」ができたと評価。三つの宗教が互いに支え合ってきた象徴として「三宗教の御朱印」を発布し、異なる宗教をまたいで世界平和のメッセージを天草から発信したい、と参拝ガイド役の「先達会」が発案し、実現した。

図-41

#### 4. 神々に御経奉納

図-42～出羽三山秘所参拝に参加した時のことである。

山形県鶴岡市羽黒町手向の某宿坊が主催した行事のこと、2022(R4)年10月3日（月）月山八合目から西補陀落（羽黒修験の秘所）、雨告山<sup>あまもり</sup>に向かい、さらには湯殿山スキー場林道止めまで回る山岳抖擻<sup>とそう</sup>（西補陀落講・10名）に参加して来た。前回の2016(H28)年10月13日(木)から6年振りの2回目である。図-43aは前回、図-43bは今回の状況である。年々変化するのだろう。この行程の三分の二ほどは濃い藪漕ぎであった。

図-44は月山山頂の神社本宮裏手（北側）から西方面・庄内平野を望んだ写真である。西補陀落は矢印の先の谷底にある。そこと雨告山では、神様を崇敬し寿ぐ拝詞（神文）を全員で唱和——広い意味での法楽・声明——した。出羽三山神社に奉仕する手向の宿坊関係者や神職などであるから、神社の神道方式の三山拝詞を奉納するのは当然であるが、神の聖地と称するこの地において、最後に**佛教の般若心経を唱和・奉納した**のである。とてもとてもうれしくなった。前回は唱えなかった記憶がしている。





図-42

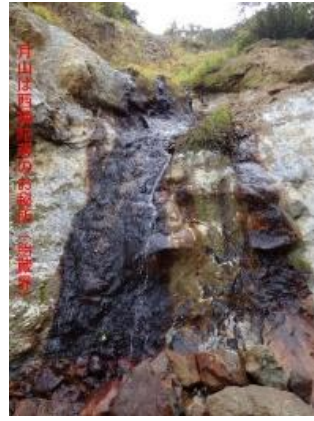


図-43a



図-43b



図-44

## 5. 対照的な宿坊

宿泊年は違うが、手向において異なる宿坊AとBに泊まる機会があった。ある違いに驚いた、接待の良し悪しのことではない。共通点は神仏混淆の祭壇である、中央の仕様・造り・飾りは神道式、その両端と奥に仏教方式、つまり、先代から引き継がれてきた仏像や仏式の祖霊祭壇が並んでいる。いわば上記の宮司の生田家と瀧本家の祭壇と同様（酷似）であった。

そこで違いとは次のようなことである。

Aについて、私は“神仏混淆の祭壇で素晴らしいですね！ 私もこのような祀り方は大好きです。”と話したら、その主人Aは口元に指を当て“他言無用、神社関係者には絶対に言わないでください！”とまじめに、かつバツが悪そうに話されたのである。何かを恐れているのか？ びっくりした。

Bについて、玄関を入り荷物を置いたら、この主人は、まずは私を祭壇に案内したが、開口一番“私の処（当坊）は神仏混淆です。”とおっしゃられたのである。二礼二拍手一礼を以って拝み終わったら、仏像の入った厨子の前に案内されたのである。そこでは合掌を以って拝礼した。終わったら、祭壇

の全部を見てもよいとおっしゃられた。さらには、翌朝の宿泊者が集まった祈祷祭儀では、神道式の法楽の後に、ここでも、般若心経等の仏教式法楽も奉納したのである。“出羽三山はこれではなくてはだめだ”と自噴を覚えた。

\*\*\*\*\*

### < 所 感 >

自然に宿る精霊に八百万の神を感得する日本人は、仏教伝来以降、心の中では神仏の区別なく融合して祀っているのである。B宿坊がとっている祭儀・所作・振舞いは本音と建前に齟齬がない。とても立派なことだと納得・感服した。

それにしても、A宿坊は本音（当坊内での神仏混淆の実情）と建前（神社に奉仕するが故の外向けの厳格な神仏分離の姿勢）を使い分けているかもしれないが撞着・蒙昧しているのであろう。ところが、出羽三山神社は別記したとおり、今でも実質は神仏混淆の神域・霊域となっているのである、しかし、その同社に奉仕・奉斎しているAの当主はこれが分かっていないのである。“知行合一ならぬ、知行バラバラ”の「自作ネット包囲リング内での一人相撲」の様相と見えた。人は色々あら～な！の世界であるが。また、そのAは様々な販売書籍に載っており周知の事実と思えることまでも、出羽三山の秘所だとか何とか言って、秘匿姿勢と特権意識を振り撒いているような発言であったが、至って狭隘至極というものを感じた、貴方は、何々は秘密と言うかもしれないが、視界に入らないだけで、知っている人・分っている人は沢山いるのである。

(end)